

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900178		
法人名	福岡地所シニアライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ユトリア博多		
所在地	福岡市博多区博多駅南3丁目4-36		
自己評価作成日	平成28年12月14日	評価結果確定日	平成29年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

当施設は平成26年3月に開設したグループホームです。同じ建物の中に「小規模多機能居宅介護」「訪問介護」「サービス付き高齢者向け住宅」を併設しております。認知症が進んで在宅生活が難しくなった方でも、リロケーションダメージも少なく移行できるのではと思います。街中にある利点を生かし、こまめに散歩やドライブ、外出行事を行うようにしております。「尊敬ある介護」「やさしい介護」「生活の質の向上」を基本に「自分らしくを支える真心の介護」を職員一同心掛けております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年12月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から3年目に入る「ユトリア博多」は、小規模多機能、サ高住、訪問介護と併設の複合型施設内にある2ユニット型グループホームである。博多駅からも徒歩圏内にあるロケーションで、家族も面会に行きやすく喜ばれている。母体が福岡地所ということもあり、宿泊所や保養など社員の福利厚生も充実している。今年から満床にもなり、入居者同士の交流もあり活気が出てきた。地域交流も進んできて、特にこの一年間は積極的に地域行事に顔を出すことで馴染みも出来てきており、施設の認知度も高まっている。施設全体での委員会活動も活発で、レクや研修などに職員も積極的に携わっている。協力機関に特養もあることで、情報を共有したり、相互の入居紹介もあり、今後も連携を深める考えである。地域との関係も深まり、今後も引き続き地域福祉支援の中心となる活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム内の朝の申し送り時と1階事務所で行う合同朝礼の際、唱和することにより「尊厳ある介護」「やさしい介護」「生活の質の向上」の理念を共有し実践に繋がるよう心がけています。	施設全体の朝礼と、グループホームの申し送りがあり、ユトリア博多の理念、事業所の介護の理念のそれぞれを唱和している。年間の事業所目標も定め、今年は「チームワークの介護を行う」として、個人の目標設定、振り返りもしている。月1回の全体会議の中で、理念に沿った介護の実践について上長から話されることもあり、日頃も言動などに注意している。	開設から3年が経ち、満床になり運営が落ち着いてきたタイミングもあり、改めて全体で話し合せて、事業所の理念を見直すことも検討されている。理念をもとにした行動規範や、ユニット理念など様々な形での実現可能なものが作られることが期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1回の地域運営推進会議において、地域行事の情報を伺い、積極的な参加努力をしています。地域主催の行事、朝のグリーン作業や、運動会・バーベキュー・餅つきなど少人数でも参加するように心がけています。	毎月公民館で開かれる「ふれあいサロン」の参加も今年から増やして、入居者と一緒に参加している。町内会加入もあり、餅つきやBBQなどの行事参加もここの一年積極的に取り組み、顔も覚えてもらい馴染みが出来てきた。施設行事にもボランティア協力してもらったり、地域の方も招いている。地域交流室を活用して不定期のカフェ活動をしたり、健康体操への貸し出しもしている。管理者が認知症サポーターメイト資格をもっており、専門学校での講義も行った。	認知症カフェや認知症サポーター活動など、近隣の企業や公民館とも連携して、情報発信の活動につながっていくことも期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や見学、その他利用者に応じた相談には積極的に関わり、運営推進会議で認知症の基礎知識の話をしたり、施設独自のカフェを開催し、地域の方々への発信を行っています。また、地域支援アドバイザー研修に参加し地域への発信を学んでいます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を行い、状況報告・地域行事などの情報交換を行っています。また「そうめん流し」「防災訓練」等の施設行事と日時を合わせて職員の接遇などに対しても意見を頂きサービスの向上に取り入れています。	地域包括、民生委員、自治会長のほか、関係事業所や有識者の参加も多い。家族も6人ほどが来て、入居者と親子で参加されている。ソーメン流しや防災訓練との同日開催もあり、一緒に参加する。会議では事故報告や、苦情、行事報告をメインに、参加者からの質問や意見も多い。参加案内は家族全員に送り、議事録も郵送とファイリングしたものを1Fに設置で報告している。	変化をもたせるために、運営推進会議内で、ミニ講座や勉強会形式にしたり、出欠確認時に参加者からテーマや要望を聞いて、会議に反映させてみてはどうだろうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加して頂き情報を共有したり、グループホーム協議会・博多区グループホームネットワークに積極的に参加し、行政の方々と交流に努めています。	市の担当者も開設時からなじみになっており、相談事もしやすい。県のグループホーム協議会や、博多のグループホームネットワークなどにも市の担当者が見えることも多く、その際にも話すことが出来る。市から依頼を受けて認知症サポーター養成の講師派遣も行った。	地域支援アドバイザーの資格取得に取り組んでおり、今後は博多の近郊地区での活動に行政とも協力していく計画である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や施設外研修にて職員研鑽に努めています。家族の意向でペット柵を4点にしていた方がいらっしゃいますが、ご家族へ身体拘束がもたらす弊害についてお伝えし、現在は安全性も考慮して解除しております。	行政主体の外部研修の参加や、伝達も行っている。以前、四点柵の利用があった際も、職員で見直し、話し合いを行い、すぐに解消につながった。センサーに関しても不必要に使わないよう見直している。1Fの正面玄関、3Fの入り口は職員管理の自動ドアで、希望がある際は付き添って移動している。最近では近隣事業所と協力して徘徊模擬訓練を行った。スピーチロックについても注意して取り組んでいる。		

H28自己・外部評価表 (GHユトリア博多)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や施設外研修に職員を参加し理解を深めています。スピーチロックについても、各部署委員が主となり言葉使いのあり方について注意を払っています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にも参加し、内部研修で伝達研修も行っています。現在成年後見制度活用の入居者の方がおり、実践を通して制度について各職員が理解を深めています。	入居時から後見制度利用の方が1名おり、改めて受け入れの際に内部での勉強会を開催した。毎年権利擁護に関しても計画的に外部研修に参加し、内容の伝達研修も内部で行っている。1Fのエレベーターホールのラックの中に、制度資料やパンフレットも常時備え付けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学は常時受けており、契約時には口頭及び書面での十分な説明を行い、同意を得ています。契約後も必要に応じて相談援助を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設独自で満足度アンケートをご本人・家族様へ行い、集計し掲示を行い、意見に対して回答を行ってます。運営推進会議においても意見・質疑応答を行っています。又、月に一度居室担当者からご家族様へ入居者様の様子をお手紙に活動風景の写真を入れてお知らせしています。	施設全体で取り組む満足度アンケートは本人と家族に別々に聞き取り半数程度の回答を頂いた。結果は集計して全員に郵送で報告しており、改善結果の報告は個別に行い、全体にはいま取り組み中である。運営推進会議への参加も多く、意見から家族会実施の要望を頂いている。アンケートの意見も様々に質問し、回答も多かった。家族参加の行事も多く、家族も協力的である。	要望が上がっていることもあり、家族会の結成を検討している。横のつながりを作ることを目的とするか、会議的な運営を目的とするかで懇親会的なものなどやり方は変わるが、実現に期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送り時や、毎月の全体ミーティングの場で職員の意見を聞いたり、支配人・事務長・職員で行う全体会議の機会を設けています。又、目標管理シートを取り入れ個人面談も行っています。	各ユニットごとのミーティングと、施設全体でのミーティングはそれぞれ毎月あり、全体での情報共有を図っている。入居者の情報はミーティングで話し合い、会議での意見も出しやすい。日頃の会議や話し合いの内容で必要なものは運営にも上げていき、改善に取り組んでいる。気づいたことは日々のケアのなかでもリーダーにあげたり、管理者との個別面談でもあげられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、代表者が全体ミーティングに参加して職員の話の聞いたり、目標管理シートを取り入れ各自が向上心を持って働けるよう整備に努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女問わず年齢や経験年数・他職種の職歴など幅広く雇用しています。職員それぞれの個性を活かし、入居者のケアに繋がるよう配慮しています。また、目標管理シートの活用により職員個々人の自己実現に繋がるよう配慮しています。	男女比も半分近く、年代は20～50歳前後で配置されている。勤務体制も希望休暇を聞きながら、行事などにも合わせて臨機応変に勤務し職員の負担軽減に努めている。職員も能力や好きなことを活かして業務に取り組み、資格取得にも積極的である。会社からも外部研修の案内があり、勤務として参加されることもある。会社の福利厚生も充実しており、保養所や宿泊施設など希望して安価に利用することができる。	

H28自己・外部評価表 (GHユトリア博多)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修や内部伝達研修、資料の回覧などを通し人権教育や啓発を行い、偏見や差別、プライバシーの侵害がないように取り組んでいます。また、入職の際には必ず人権・法令順守の研修を支配人から行っています。	今年市が主催する「責務とはなにか」をテーマとした法令遵守やプライバシー保護に関する研修に参加し、内部での伝達も行った。入職時にはマニュアルをもとにしての人権研修も実施している。年明けの1月にも人権研修の参加が計画されている。	公民館や市民センターでの人権学習も開かれているため、機会があれば参加も検討されてはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や能力に応じて必要な外部の研修への参加や、他施設への研修などを行っています。取得支援制度多数あります。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・博多区GHネットワークで行われる研修や、勉強会に参加する等交流会・情報交換の場を設けています。今年RUN伴にも参加しました。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、入居前にはご本人様との面談を行うが、必要であれば、入居前、数回にわたりご自宅に職員が訪問して本人様との関係を作るなどしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の時から、関係づくりに努め、こまめに連絡を取れる関係を作り、要望などないか伺い安心して入居して頂けるようしております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人様とご家族様の意向を伺い、訪問マッサージなど必要なサービスの見極めを行っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時々状況に合わせて家事(食器洗い・洗濯物干し・たたみ・掃除など)役割を持ち、自立支援を行い、人生の先輩として敬う気持ちを持ち、馴れ合いすぎない関係を務めています。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や遠方にいる家族様へはお電話で細かな日頃の様子や体調面の事を家族に伝え、家族との関係の橋渡しを行うことによって共に本人様を支えていく関係を作っている。		

H28自己・外部評価表 (GHユトリア博多)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人・親類の方々もいつでも面会に来て頂けるよう声掛けし、自宅への家族様との帰宅、外出の際は要望があれば送迎支援を行っています。	市内近郊からの入居も多く、県外からのアクセスもよいため、家族の面会は多い。事前に家族に関係を聞いて、外部からの面会も自由に受け入れている。馴染みの美容室には家族に支援してもらい通うこともある。百歳のお祝いに自宅に送迎介助したこともあり、個別支援もしている。継続的に一時外泊する方もおり、家族に協力してもらっている。関係が疎遠な方もいるが、入居前の関係施設にお連れして旧交を温めたこともあった。編み物や習字など以前からの趣味の継続もしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・リビングなどでの席などその時々状況に応じた席などを案内し、時には職員が間に入りながら、入居者様同士が関わりあえる環境作りを目指し取り組んでいます。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても何かあれば連絡を下さいと声掛けを行い、亡くなられた方のご家族の所にも初盆には伺うようしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、ご本人様の暮らしの希望、意向の把握に努めています。言葉での意思が困難な方には、ご家族からの情報をもとに把握に努めています。また、医療機関とも協力して可能かどうかの判断をもらっています。	入居時のアセスメントは計画作成担当者が行い、それ以降は担当者を決める。新たに分かった情報は追記し、3ヶ月～半年の見直しや、随時変化があった際の取り直しもしている。介護認定更新時の情報照会も行っている。実現が難しいものに関しては医師などに相談しながら、本人本位の介助に努めている。	センター方式の活用も検討しているが、職員の安定と、スキルアップを図り、将来的な実現が期待される。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず面談を行い、入居されてからもセンター方式の一部を使って、生活歴・趣味などを把握するように努めています。また、日頃の何気ない会話の中にある情報を聞き逃さないようにしています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今出来る事、出来ないことを日々のケアの中で把握に努め、職員間での情報共有に努め、花を分けたり、小さなことでも日常生活の中で残存能力を活かしたケアを出来るようしています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、居室担当が中心となってご本人様の要望・家族からの意向を尊重し作成担当が他職種・主治医や訪問看護からの意見も聞きながら介護計画を作成しています。	正社員を中心に居室担当を決めて3人程度の入居者を受け持っている。担当がプランの素案を作成し、ミーティングの際の情報伝達、共有によって現場の意見も取り入れている。プランの見直しは3～6ヶ月で行い、担当者会議もまめに開催し、医師や関係者の参加や意見照会も書面で頂いてプランにつなげている。毎日のプラン目標の実施チェックも行い、全体でのプラン共有を図っている。	

H28自己・外部評価表 (GHユトリア博多)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や心身状態についても記録しています。1日に3回ある各ユニット申し送り時に問題があった場合などミニカンファを都度行い、情報を共有して介護計画の見直しに反映させています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が多忙や遠方で、すぐに対応できない場合など、必要に応じて職員で受診対応や、自宅への送迎、外出への送迎などサポートする、ご本人ご家族の負担軽減に努めています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には積極的に参加させて頂き、家族や地域の皆様も一緒に参加できるそうめん流しなど施設行事を行い、交流の機会を支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医の変更のお願いはせず、ご希望に添えるよう相談に乗っております。特に主治医がいらっしゃらない方はご相談にのり、提携病院・訪問診療などご紹介しています。	かかりつけ医を持たない方には、それぞれの症状に合わせた提携医を紹介し、2週に1回の訪問診療を受けてもらっている。外部のかかりつけ医の場合は、基本的には家族に支援してもらい、行けない際には事業所から通院介助をしている。訪問看護との提携もあり、毎週の健康管理と、24時間のオンコール体制もとっている。医療情報は家族に聞いたり、直接医療機関にも確認して共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約しており、変化があった時は、その都度報告し、異常時には昼夜を問わず24時間オンコール体制で連絡できるようにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には口頭でも本人様の日常生活を説明し、変わらぬケアの提供が出来るように配慮しています。また、お見舞いへもこまめに伺い、退院に向けての情報収集も入院病棟看護師や地域連携室などに行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化及び看取りに関する指針を説明しています。昨年初めて該当者が出たが、ご家族の思いを随時確認し、主治医との連携のもと終末を迎えることが出来た。この経験で職員の意識向上に繋がり看取りの研修などを行っています。	入居時の説明と、重度化の際に改めて医師の立会いの下同意書を取り交わし、昨年初めて看取りの対応を行い、現在新たに看取り対応に入った方もいる。提携の訪問看護師にターミナルケアの研修をしてもらい、所内にエンゼルケアのセットも準備している。提携医も24時間対応してもらえ、訪問看護との連携とともに、今後も要望があれば対応できる体制を作っている。亡くなられた際には撮りためた写真のアルバムとDVDをお渡しし、家族にも喜ばれている。	

H28自己・外部評価表 (GHユトリア博多)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、感染症発生時の対応については、年数回内部研修で実際に嘔吐物に見立てたものを処理する所から行い周知している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の小学校で行われる防災訓練にもご入居者様と参加し、施設内では、年2回、日中・夜間想定で、地域の防災担当の方も参加して頂き防災訓練を行っています。地域へは当施設は備蓄を備えており、万が一の際は避難所として活用していただける旨告知しています。	訓練は全館合同で行い、昨年からは運営推進会議との同日開催も企画し、地域の方の参加協力も頂いている。建物も鉄筋造のため、災害に強く、火災訓練時も外階段からの避難が出来る。備蓄物も共有の物で、水や食料品を備えておりAEDの設置もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職後近々に法令順守・プライバシー・接遇研修を、行うよう努めており、職員とご入居者の関係性が築きやすい言葉かけをするように努めています。	入職時には接遇の研修も行い、トイレ排泄介助や、居室に入る際もノックと声掛けを徹底するようにしている。男性職員も多いが、なるべく同性での介助になるよう配置している。写真を含めた個人情報利用の同意を得ているが、所内の掲示は抑え目で、適宜アルバムを開示するようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で自己決定を出来る方は尊重し、自己決定が難しい方にも、表情や細かな変化を見落とさず思いや希望をくみ取れる関わり、場の雰囲気づくりが出来るよう注力しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとり、その日によって過ごしたいペースは違う為日課(午前中の体操・午後のレクリエーションなど大まかなもの)にもとられず過ごして頂いています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、本人様と相談しながらカット・パーマ・カラー等を行っている。衣服も基本本人様に選んできていただくようにしております。また、使い慣れた化粧品を職員と一緒に購入しに外出したりしています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事に関しては、厨房で栄養管理されたものを手作りし提供しています。レクリエーションや誕生日会などのお菓子作り等を入居者様と一緒に行ってます。テーブル拭きに始まり、食卓の用意(ランチョンマット敷きや箸置き・箸を配る)や後片付けはご入居者様と一緒に行っていきます。	施設全体の厨房を外部委託しており、3食とも配食を受けている。陶器の器でランチョンマットに盛り付けて家庭的な食事を提供する。満足度調査の結果や日頃の意見も、月1回の給食委員会で取り上げ、食事の感想やメニューの要望をつなげている。関連事業所の管理栄養士の協力を受け、メニューチェックもしている。毎月の行事食や季節の料理が提供されることもある。職員も希望すれば同じものを食べることもできる。	行事の際のケータリングや出前など、食事にバラエティをもたせることも希望されている。今後も実現に関して検討されることに期待したい。

H28自己・外部評価表 (GHユトリア博多)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の病状や嚥下状態に合わせ、形態・量を主治医などの意見も取り入れ提供しております。食事・水分量は記録し、月初の体重測定の結果などを照らし合わせ医療機関へ相談しています。朝昼一緒にパン食と言う方にはそのように提供しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、お手伝いをしており歯ブラシは毎回熱湯消毒をしています。また、就寝前は義歯を取り外し、洗浄保管しております。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の排泄パターンを把握していき、尊厳を守った支援を行うようにしております。また、ウォシュレットも活用し、清潔を保つようして残存機能を大切に、なるべく布パンツに戻るよう自立支援にむけた支援をするよう努力しています。	入居者それぞれで個別に管理する排泄チェック表があり、水分摂取や睡眠時間なども一緒に管理している。トイレ誘導を基本とし、排便もマイナス回数を記録して、必要時は指示を仰いで補助している。バットの枚数や大きさなどは随時職員がそれぞれで対応し、記録も別途参照している。呼びかけも自尊心に配慮した言葉を心がけ、周囲にも働きかけている。	
46		○便秘の予防と対応	1日の水分摂取量を記録し相応な水分を提供し、歩行やレクリエーションなど運動も取り入れています。又、便意を感じた時にはすぐにトイレに行けるよう心掛けてます。主治医にも相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむ事ができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週2回からとしているが、ほぼ毎日入浴されている方もおり、時間も夕食後に入浴の希望があれば、出来るよう支援しています。ひとりひとりのタイミングに合った声掛けや誘導が出来るよう工夫しています。	三方向介助が出来る中央に浴槽が置かれ、H型手すりやシャワーキャリーによって安全に入浴ができる。なるべく希望を聞き入れて入浴を支援し、強く拒まれる方も少ない。自分で出来る方にはなるべく自分でしてもらい、見守りで安全面の配慮のみしている。浴槽のお湯も毎回入れ替え、常に新しい状態にしている。上層階に機械浴もあるため、必要になれば利用することもできる。入浴時には毎回皮膚観察も行い、ボディチェック表に記録している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況・状態に応じては、日中も画商時間をもうけてます。一人一人の就寝時間を尊重し、状況に応じた対応をおおっており、空調や照明(間接照明)にも配慮しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様それぞれの病気や飲んでいる薬が分かるように、お薬手帳・薬情資料をまとめている。薬局とも連携を取っており、薬の変更があった場合は、申し送り事項として、口頭と記録を行い支援しています。		

H28自己・外部評価表 (GHユトリア博多)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話の中で、その方の生活歴などを伺い、裁縫が好きな方は針仕事をしたり、絵を書くのが好きな方は塗り絵をして頂いたり、朝刊を読むのが習慣の方や、脳トレが好きな方は積極的にして気分転換の支援をしています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やドライブは気候に合わせて行っており、その他も季節や行きたい所の希望を伺って、こまめに外出するようにしています。また、ご家族も交え外出する機会も設けています。	近くに公園や、パン屋、スーパーもあり、散歩の折に買い物に行くことも多い。個別や少人数のケアで外食に行くこともあり、いろいろなものを楽しんでいる。外出行事として、バスハイクで動植物園にお弁当持参で行くこともあった。意欲の低下された方には無理強いせず、別個で過ごす方もいる。博多駅も近いので、最近では駅前のイルミネーションを見物に行った。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	金銭管理を本人様がしている方はいらっしやいませんが、職員と外に買い物に行くような時は、施設立て替えで行い、入居者様にレジでのやり取りをして頂いています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外線の取次や、施設の電話から自ら電話をかけたりにして頂いています。また、ご本人様宛に来たお手紙の返事を書くお手伝いなど支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用リビングには、入居者様達が作られた、カレンダーを貼ったり、職員と一緒に作った壁画や季節にあった飾り付けを行っています。毎週生花を花屋から配達してもらい、フロアにも生の花が常時あるように心掛けています。	事務室を中心に、ほぼ対称に2ユニットが配置される。ホールには2人掛けのダイニングテーブルがいくつかあり、食事の際などつなげたり、気の合う方同士で座ったりしている。都会のビルにあるため、窓外に自然はないが、飾りつけや入居者と作った生け花などで季節感を感じてもらえるように心がけている。床材はフローリング調のビニール製でクッション性もあり、清潔にされている。調度品にも統一性があり、高級感が感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他入居者様の居室に遊びに行ったり、リビングのソファも自由に、思い思いの所に過ごせるようにし、一人の時間を過ごしたい時は居室で安全に過ごせるよう配慮しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様・ご家族と相談し、使い慣れた家具等持ち込んで頂いたりしている。入居前にいた生活空間となるべく近い状態にし、安全を考えた動線を考えて工夫しています。	持ち込みは自由で、食器棚やカフェテーブルなどで自宅に近い環境を作っている。介助バー付きの木調介護ベッド、褥瘡予防マットレスが備え付けられており、ポータブルトイレも要望があれば用意できる。居室で音楽を聴いたり、テレビを見たり思い思いの時間を過ごす方も多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリーとなっており、居室内も生活動線に合わせて家具の配置など考え安全に配慮しています。居室入口には本人様ご家族様の了解を得て、表札を付けています。		